

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1493200172
法人名	特定非営利活動法人 梓岳福祉会
事業所名	サン・フローラ上白根
訪問調査日	2017年11月8日
評価確定日	2018年3月23日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 29 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493200172	事業の開始年月日	平成21年2月1日	
		指定年月日	平成21年2月1日	
法人名	特定非営利活動法人 梓岳福祉会			
事業所名	サン・フローラ上白根			
所在地	(241-0001) 横浜市旭区上白根町163-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護		登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護		通い定員	名
			宿泊定員	名
			定員計	18名
			ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成29年10月18日	評価結果 市町村受理日	平成30年4月2日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居様が主人公になれる施設を目指しており日々の予定は決めず入居者様のペースやその日の気分にあう生活が出来るよう援助しております。又、季節ごとのイベントを行う事によりご家族様にも入居者様との楽しい時間を過ごせるように努めております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8SYビル2F		
訪問調査日	平成29年11月8日	評価機関 評価決定日	平成30年3月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、特定非営利活動法人梓岳福祉会の経営です。同法人は、回想法によるケアの実現を目指して「サン・フローラ上白根」を設立しました。立地は、相鉄線「鶴ヶ峰駅」から5分程度バスに乗り、「辻バス停」からも徒歩5分と分かりやすい場所にあります。落ち着いた雰囲気のある2階建ての建物は、緑豊かな閑静な場所にあり、2階が道路に面した玄関になっています。各居室は全室南向きで、陽当たりが良い居室になっています。広い庭にはテーブルと椅子が置かれ眺望もよく、利用者が日光浴を楽しんだり、事業所の行事でバーベキューを行うなど、多目的に利用することができます。事業所に隣接する法人所有の畑では、近隣農家の協力で季節ごとの野菜を育て収穫し、収穫した野菜を使用する等、利用者が季節ごとに旬の野菜を楽しむこともできます。

●事業所の理念は「人間として尊厳とクオリティ・オブ・ライフ（生活の質）を保ちながら、個人の自立を促し、喜びややりあいのある生活を送ることができるよう支援します」と掲げています。利用者が地域の方々と触れ合いながら、家庭的な環境のもとで、安心と尊厳のある生活ができるよう支援しています。春のいちご狩り・バーベキュー、夏の流しソーメン・夏祭り花火大会、秋のぶどう狩り、冬のクリスマス・忘年会など、季節ごとのイベントを計画的に行い、利用者が楽しい時間を過ごすことが出来るように心がけて支援しています。

●職員には、理念に基づいたケアを実践すべく、スキルアップのための教育と研修は継続して行い、職員も自らを高めるべく努力しています。市や県の研修にも参加し、事業所の会議で研修内容を共有することで、統一したケアが行えるように研摩しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	サン・フローラ上白根
ユニット名	ムーンライト

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に溶け込み地域の方々とはふれあいながら喜びや張り合いのある生活を送れるよう支援します」との一文が入った理念を施設内に掲示すると共にスタッフ会議等で実際のサービス提供にどう反映させるか話し合っている。	事業所では法人の理念を共有しており、玄関とリビングに掲示しています。スタッフ会議で、理念に沿ったケアを実践するために毎月理念に沿った目標を掲げ、職員間で共有しています。地域との関わりを重視し、目標を持ったケアで利用者が喜びのある生活を送れるようサービスの向上に努めています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣高校の体験学習の受け入れ、ホーム主催イベントへの地域住民参加等により交流を計っている	上白根自治会に加入し、夏祭りなど地域の行事に参加しています。事業所でのバーベキュー・夏祭り花火大会などには地域の方も参加を呼びかけ、交流を図っています。旭陵高校の体験入学の受け入れや近くの保育園児と一緒に散歩するするなど、地域に開かれた事業所を目指しています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自由に見学が出来る旨を近隣住民の方に対し行っている。又、立ち話等の機会での近隣住民の方の質問に答えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月で開催し終了時に次回開催日を決めるなど予定を立てやすくし参加を促している。会議では一方的ではなく参加者との会話が成立するよう心がけている。問題発生時は対応方法を説明し意見を求め活用するようにしている。	運営推進会議は、利用者家族・地域民生委員・地域包括センター・区役所職員などの出席を得て、2ヶ月に1回、奇数月に開催しています。事業所のイベントの予定、利用者の様子などの現状報告を行っています。利用者家族の出席が5～6名と常に多く、提案された意見は、運営・サービスの参考にします。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	研修情報を頂き研修に参加させて頂いている。グループホーム連絡会には区役所からもご参加頂き交流を図るようにしている。又、生活保護受給者の手続きでの相談や指導を受ける等、区の生活保護担当とは常に連携が取れている。地域包括支援センターには運営推進会議にご参加頂いている。	運営推進会議には区役所職員が出席しており、事業所の現状を報告するなど日頃から情報交換をしています。区役所から身体拘束・感染症などの研修案内があり、積極的に参加するなど協力関係を築いています。理事長が横浜市グループホーム連絡会の副会長を務め、市・区と連携しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの作成やスタッフ会議での事例を挙げた議論、研修への参加で意識付けを行っている。玄関、廊下の施錠は施設の方針とし原則的に禁止としている。ご家族様へは入居相談時に前記方針を伝えご理解を頂いている。	身体拘束のボーダーラインを含めたマニュアルがあり、研修やスタッフ会議で確認し、身体拘束しないケアに取り組んでいます。玄関・ユニットの出入り口の施錠は行わず、見守りで対応しています。センサー利用もせず、利用者家族にも説明しています。過去に身体拘束の実例はありません。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされる事の無い様注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修へ参加し学ぶと共に必要に応じ関係者へ働きかけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を使い説明すると共に不明点等の質問を確認しご納得頂いた上で契約書に署名、捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様面会時にご本人の心身状況や生活状況を説明している。又、面会時や運営推進会議時に不明点の説明やご要望の有無を確認している。苦情等があった場合に備え相談記録簿を準備し記録を残せるようにし、それらを運営に反映できる体制をとっている。	家族に利用者の様子・行事報告などを記述した「生活状況報告書」をイベントの写真を添付し毎月送っています。家族からの意見・要望は、平均月1回以上ある面会来訪時や、家族の半数以上が参加する運営推進会議で聞き、その意見・要望については記録に残し、運営に反映しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等を活用して意見の汲み上げを行い改善すべき所は改善するなど職員の勤労意欲の低下防止に努めている。	ユニットごとの毎月のスタッフ会議や常勤者会議で話し合い、要望・提案事項を聞き、情報の共有化を図っています。現場でも直接職員の意見を積極的に聞き、業務に反映させています。法人の理事長が管理者を兼ねており、定期的に職員との面談を行い、職員の意見や提案を聞く機会も設けています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に賃金の改定などを行っている。又、勤務時間等の希望にもなるべく応えるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	状況等の必要に応じたOJTの実施や外部研修へ積極的に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域ブロックの連絡会や横浜市グループホーム連絡会に加入、参加している。又、それらが主催する勉強会や研修会に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訴えの傾聴に心がけると共に受容の姿勢を示すことで安心感を持って頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訴えを傾聴し困っていることや要望等を把握する。又、状況の説明を行い情報を共有化し方向性を同じにする事で信頼関係を構築できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況や意向の確認を行い支援を決定する。その過程で他のサービス利用が望ましい場合は家族に対し情報を提供、関係者への橋渡しを行い他のサービス利用しやすい環境を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事、洗濯、掃除等の家事は職員が一方的に行うのではなく入居者様が出来る事は主体となって積極的に行って頂き職員は援助に徹するようにし共同で行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にご家族も楽しめる行事を開催しご参加頂く事で入居者様との接点を作っている。又、面会時間を設けない等、面会しやすい環境を提供するよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室への利用を援助し関係が継続できる環境を提供している。又、ご家族にご協力頂き馴染みの場所への買い物やお墓参りに出かけて頂いている。	友人・知人の来訪も多く、馴染みの美容院に行く方もいます。入居前からの老人会行事に参加する支援や、電話の取次ぎ、手紙のやり取りの手伝いもします。入居前に利用者の趣味・生活歴などを聞き職員で情報共有し、家族の協力で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	こまめなりビングへの誘導声かけを実施している。又、必要に応じご入居者様の間に混じることで関係構築の援助を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に相談に乗る旨の声かけを行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	買い物等の個別対応等希望に沿った生活が送れるように配慮している。本人会話の傾聴や表情から希望や意向の把握が出来るよう努めている。	事業所が目標としている回想法に沿い、利用者の話をよく傾聴し、話しやすい雰囲気作りを心がけています。入居時に、家族からこれまでの暮らしぶりや思い・希望を提供してもらい、食事や入浴時などでの普段の会話の中で、利用者の行動・表情・仕草から一人ひとりの思いや意向の把握に努めています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聴き取りや普段の会話から生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペースで生活を送って頂き一日の過ごし方ペースを確認すると共に家事等の作業を行って頂く事で有する力を把握し会話の傾聴や様子観察により身体状況の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族への聴き取りを実施し状況に合わせた介護計画を作成している。又、定期的なモニタリング、状況変化時の再アセスメント等を行い介護計画と現状にズレが生じないように努めている。	入居時は1～2カ月の暫定プランで様子を見ます。利用者全員の日々の様子・状態の変化を職員全員が出席する毎月のケア会議で話し合います。利用者1名を複数で見る居室担当制で、医師・看護師の意見も加味しながら、短期は6カ月、長期は1年に1回見直しを行い、介護計画を作成し家族に説明したうえで実行しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	新しく実施するケアの結果や日々の様子、気付いた事等を業務日誌、連絡ノートに記載し情報の共有、実践に努めている。又、介護計画見直し時にそれらを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応が取れる体制の提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア等を活用している。又、安全に配慮しつつ様々な作業を共同で行う事で力を発揮して頂いている。その他、趣味活動の発見に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に確認し希望があった場合、その医療機関の受診を援助している。又、医療機関への必要に応じた情報の提供や連絡を行い適切な医療を受けられるよう努めている。	入居時にかかりつけ医の説明をし、利用者・家族の意向を確認します。協力医療機関は、内科・精神科医の月2回の往診があり、3ヶ所の歯科医が週1回往診し、利用者全員の口腔ケアを行います。リハビリも週2回の往診もあり、看護師も職員として配置しており24時間対応となっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師がおり介護職員は日常で気付いた事を気軽に相談できるようになっている。訪問診療時には可能な限り看護師が対応する事で適切な受診や看護が受けられる支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報の提供、交換をこまめに行えるように努めている。又、近隣病院のNSWや看護師との顔つなぎに努め関係構築を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	書面を作成し家族に説明すると共にかかりつけ医とも情報の共有化に努め意見の一致を図っている。また、状況変化に応じ話し合いを行い柔軟な対応が取れるよう努めている。	入居時に、重度化した場合や終末期の対応について説明し、看取りについても事業所が出来る事出来ない事を家族に説明しています。事業所として看取りの実績はありませんが、重度化が進み終末期を迎える介護については、医師・家族・職員が話し合い家族の意向に沿った支援に努めています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。又、看護師によるレクチャーの実施、外部研修への参加を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消火器の点検を行うと共にカセットコンロやガスボンベを準備している。避難訓練は消防署にご協力頂き通報訓練、避難訓練を実施している。又、訓練時に消火器の使用法や救命措置の指導を受ける等地域住民の方も興味を引く訓練を取り入れることにより地域住民の方の参加を促している。	年2回、消防署の立ち合いで指導を受け避難訓練・通報訓練を実施しています。訓練時に消火器の使用法や救命措置の指導も受けています。地震・火災などの災害が、日中や夜間に起こった想定で訓練を実施し、利用者も全員参加します。水・米・缶詰などの備蓄品は3～4日分を用意しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ会議での事例を挙げて注意を行うと共に日々の業務中にも入居者様のプライバシーや尊厳を失うような行動、声かけに対し職員同士で注意している。守秘義務や情報漏洩の防止に関しては雇用契約書に記載しており同意を得ている。又、ケース会議時に尊厳について議論している。	接遇についてのマニュアルも整備し、内外の研修にも積極的に参加し、職員全員で注意し合っています。名前の呼び方は名字に「さん」付けを基本としており、利用者の自尊心に配慮し礼儀正しい姿勢で接しています。トイレ誘導などの声掛けには注意を払い、スタッフ会議でも再確認します。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動を起こす場合は押し付けではなく本人の希望を確認し優先している。希望が聞かれない場合は候補を挙げ選択して頂けるよう努めている。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事日以外では事前に予定は決めず入居者様の希望にあわせ当日に一日の流れを決めている。又、希望により散歩や買い物があった場合でも拒否のある入居者様へは強制せず本人のペースに合わせた生活が送れるよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	嗜好調査を実施。着衣交換の際は季節感に大きなズレ等ない場合は本人希望を優先している。希望者には買い物同伴等援助を行い本人が好みの衣類を選択出来る環境を提供している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に食べたい物を確認しメニューを決定している。調理や片付けは入居者様が主体となって進められるよう援助している。	利用者の要望を聞き、調達している食材を使ったメニューを職員がその日決めて作ります。行事食以外はユニットごとの別メニューです。食材は、職員と利用者が近くのスーパーに買い出しに行き、調理や配膳、下膳や後片付けは利用者が主体となって手伝うなど、家庭と同じ風景での食事支援が行なわれています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を作成し毎日チェックを行っている。前日メニューを確認し一定の食材が続かないよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後誘導声かけを行っている。入居者様状況に応じ介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿、便意の訴えが聞かれない入居者様に関しては排泄パターンに基づいて時間誘導し、失禁しないよう援助している。又、必用に応じポータブルトイレを使用している。オムツ使用は最低限の期間、時間のみとし常にオムツ使用の必要性を検証しリハビリパンツへの移行を心がけている。	排泄状況を記録した排泄チェック表で、日中・夜間の利用者個々の排泄パターンを把握し、職員で共有しています。自立した人は見守りで対応し、定時の声掛けと利用者の様子を見た誘導で自立排泄に向けた支援を行っています。便秘対応は自然排便を心がけ水分摂取などで対応し、夜間は2時間おきに巡回しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を誘発するような食材の使用を控え予防に効果のある食材を多く使用するよう心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日実施しており時間も入居者様の希望を優先している。拒否がある場合は担当職員だけではなく複数の職員による声かけを行うなどしている。	毎日でも入浴できる体制で、午後中心に利用者個々の要望に応じた支援をします。入浴予定日を利用者のカレンダーに記入し、入浴拒否の利用者には複数の職員の声掛けで対応します。入浴を楽しめるように季節に応じたゆず湯・菖蒲湯なども行っています。また、希望があれば同性介助も対応しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境の整備や本人ペースに合わせた声かけ、誘導を行っている。又、必用に応じ専門医への受診援助も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイリングし職員が随時見られるようにしている。又新規処方薬に関しては用法、用量、禁忌等注意点を業務日や申し送りノートを活用し職員全員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員が役割を持って生活が出来るよう援助している。又、個別の聞き取りを行い楽しいと感じる事や趣味を把握し行って頂けるよう支援している。嗜好品については調査を行い把握し可能な限り提供できるように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	状況が許す限り（天候や体調等）散歩を毎日実施している。又、食材等も買出しにはご入居者様に同伴頂き外出機会を確保している。突発の外出には職員が付き添うようにしている。	散歩は午前中、ほぼ利用者全員が毎日行っています。散歩コースは近所の神社など2～3コースあり、休憩も含めると1時間程度となります。食材等の買い物に職員と利用者数名が車でスーパーに出かけたり、季節の行事などで、いちご狩り・ぶどう狩りに行ったり、江ノ島や三溪園など遠出も企画して出かけています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	購入希望があった場合、個別対応にて買い物へ同伴している。又、その際一定の金額を渡し自由に買い物できるよう援助している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ電話の使用援助、便箋、封筒の提供を行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾りつけ等はイベント時のみとし普段は落ち着いた家庭のような雰囲気を出すよう心がけている。又、掃除等の環境整備も常時行っている。トイレ等には見当識障害が顕著に出た場合や新規のご入居者が慣れる間だけ目印を設置している。	リビングは広く、壁は明るいくクリーム色で飾りつけも限定した落ち着いた雰囲気です。オープンキッチンとなっており、食事の準備では、職員と利用者が共同作業しており家庭的な雰囲気を感じることができます。廊下も広く車椅子同士がすれ違うことの出来る幅が設けられています。1階には電子ピアノがあり、行事で利用者が利用します。毎朝の掃除で清潔を維持しています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	回想法室や玄関前、庭のベンチを活用している。席は混乱を招かぬよう食事時は固定しているがその他の時間はご入居者様同士がもめない限り自由としている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に新品を買うのではなく今まで使用していた家具等を持ち込んで頂ける様お願いしている。各居室には入居前に使用していた物の持ち込みがある。	居室には、エアコン・介護用ベッドが備え付けられ、全室南向きの明るい空間になっています。居室を自分の家と考えてもらうため、家具などの生活用品は馴染みの使い慣れたものを持ち込んでもらいます。居室担当制で、空調などの調整は職員が行い、居室の掃除は毎日利用者と一緒にしています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員見守りや一部介助を行う事で様々な作業を行って頂いている。			

目 標 達 成 計 画

事業所

サン・フローラ上白根

作成日

平成29年11月8日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練時に参加頂ける近隣住民の人数が少ない	避難訓練時の近隣住民の参加人数を増やす	日頃からの交流範囲を広めるようにする	1年
2	1	理念の実践	各職員、理念の理解度ど深める事ができる	新入職員研修時の時間を増やす。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	サン・フローラ上白根
ユニット名	トゥインクルスター

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に溶け込み地域の方々とふれあいながら喜びや張り合いのある生活を送れるよう支援します」との一文が入った理念を施設内に掲示すると共にスタッフ会議等で実際のサービス提供にどう反映させるか話し合っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣高校の体験学習の受け入れ、ホーム主催イベントへの地域住民参加等により交流を計っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自由に見学が出来る旨を近隣住民の方に対し行っている。又、立ち話等の機会での近隣住民の方の質問に答えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月で開催し終了時に次回開催日を決めるなど予定を立てやすくし参加を促している。会議では一方的ではなく参加者との会話が成立するよう心がけている。問題発生時は対応方法を説明し意見を求め活用するようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	研修情報を頂き研修に参加させて頂いている。グループホーム連絡会には区役所からもご参加頂き交流を図るようにしている。又、生活保護受給者の手続きでの相談や指導を受ける等、区的生活保護担当とは常に連携が取れている。地域包括支援センターには運営推進会議にご参加頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの作成やスタッフ会議での事例を挙げた議論、研修への参加で意識付けを行っている。玄関、廊下の施錠は施設の方針とし原則的に禁止としている。ご家族様へは入居相談時に前記方針を伝えご理解を頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされる事の無い様注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修へ参加し学ぶと共に必要に応じ関係者へ働きかけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を使い説明すると共に不明点等の質問を確認しご納得頂いた上で契約書に署名、捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様面会時にご本人の心身状況や生活状況を説明している。又、面会時や運営推進会議時に不明点の説明やご要望の有無を確認している。苦情等があった場合に備え相談記録簿を準備し記録を残せるようにし、それらを運営に反映できる体制をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等を活用して意見の汲み上げを行い改善すべき所は改善するなど職員の勤労意欲の低下防止に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に賃金の改定などを行っている。又、勤務時間等の希望にもなるべく応えるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	状況等の必要に応じたOJTの実施や外部研修へ積極的に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域ブロックの連絡会や横浜市グループホーム連絡会に加入、参加している。又、それらが主催する勉強会や研修会に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訴えの傾聴に心がけると共に受容の姿勢を示すことで安心感を持って頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訴えを傾聴し困っていることや要望等を把握する。又、状況の説明を行い情報を共有化し方向性を同じにする事で信頼関係を構築できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況や意向の確認を行い支援を決定する。その過程で他のサービス利用が望ましい場合は家族に対し情報を提供、関係者への橋渡しを行い他のサービス利用しやすい環境を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事、洗濯、掃除等の家事は職員が一方的に行うのではなく入居者様が出来る事は主体となって積極的に行って頂き職員は援助に徹するようにし共同で行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にご家族も楽しめる行事を開催しご参加頂く事で入居者様との接点を作っている。又、面会時間を設けない等、面会しやすい環境を提供するよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室への利用を援助し関係が継続できる環境を提供している。又、ご家族にご協力頂き馴染みの場所への買い物やお墓参りに出かけて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	こまめなりビングへの誘導声かけを実施している。又、必要に応じご入居者様の間に混じることで関係構築の援助を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に相談に乗る旨の声かけを行っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	買い物等の個別対応等希望に沿った生活が送れるように配慮している。本人会話の傾聴や表情から希望や意向の把握が出来るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聴き取りや普段の会話から生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペースで生活を送って頂き一日の過ごし方ペースを確認すると共に家事等の作業を行って頂く事で有する力を把握し会話の傾聴や様子観察により身体状況の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族への聴き取りを実施し状況に合わせた介護計画を作成している。又、定期的なモニタリング、状況変化時の再アセスメント等を行い介護計画と現状にズレが生じないように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	新しく実施するケアの結果や日々の様子、気付いた事等を業務日誌、連絡ノートに記載し情報の共有、実践に努めている。又、介護計画見直し時にそれらを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応が取れる体制の提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア等を活用している。又、安全に配慮しつつ様々な作業を共同で行う事で力を発揮して頂いている。その他、趣味活動の発見に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に確認し希望があった場合、その医療機関の受診を援助している。又、医療機関への必要に応じた情報の提供や連絡を行い適切な医療を受けられるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師がおり介護職員は日常で気付いた事を気軽に相談できるようになっている。訪問診療時には可能な限り看護師が対応する事で適切な受診や看護が受けられる支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報の提供、交換をこまめに行えるように努めている。又、近隣病院のNSWや看護師との顔つなぎに努め関係構築を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	書面を作成し家族に説明すると共にかかりつけ医とも情報の共有化に努め意見の一致を図っている。また、状況変化に応じ話し合いを行い柔軟な対応が取れるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。又、看護師によるレクチャーの実施、外部研修への参加を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消火器の点検を行うと共にカセットコンロやガスボンベを準備している。避難訓練は消防署にご協力頂き通報訓練、避難訓練を実施している。又、訓練時に消火器の使用方や救命措置の指導を受ける等地域住民の方も興味を引く訓練を取り入れることにより地域住民の方の参加を促している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ会議での実例を挙げて注意を行うと共に日々の業務中にも入居者様のプライバシーや尊厳を失うような行動、声かけに対し職員同士で注意しあっている。守秘義務や情報漏洩の防止に関しては雇用契約書に記載しており同意を得ている。又、ケース会議時に尊厳について議論している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動を起こす場合は押し付けではなく本人の希望を確認し優先している。希望が聞かれない場合は候補を挙げ選択して頂けるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事日以外では事前に予定は決めず入居者様の希望にあわせ当日に一日の流れを決めている。又、希望により散歩や買い物があった場合でも拒否のある入居者様へは強制せず本人のペースに合わせた生活が送れるよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	嗜好調査を実施。着衣交換の際は季節感に大きなズレ等ない場合は本人希望を優先している。希望者には買い物同伴等援助を行い本人が好みの衣類を選択出来る環境を提供している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に食べたい物を確認しメニューを決定している。調理や片付けは入居者様が主体となって進められるよう援助している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を作成し毎日チェックを行っている。前日メニューを確認し一定の食材が続かないよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後誘導声かけを行っている。入居者様状況に応じ介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿、便意の訴えが聞かれない入居者様に関しては排泄パターンに基づいて時間誘導し、失禁しないよう援助している。又、必用に応じポータブルトイレを使用している。オムツ使用は最低限の期間、時間のみとし常にオムツ使用の必要性を検証しリハビリパンツへの移行を心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を誘発するような食材の使用を控え予防に効果のある食材を多く使用するよう心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日実施しており時間も入居者様の希望を優先している。拒否がある場合は担当職員だけでなく複数の職員による声かけを行うなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境の整備や本人ペースに合わせた声かけ、誘導を行っている。又、必用に応じ専門医への受診援助も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイリングし職員が随時見られるようにしている。又新規処方薬に関しては用法、用量、禁忌等注意点を業務日や申し送りノートを活用し職員全員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員が役割を持って生活が出来るよう援助している。又、個別の聞き取りを行い楽しいと感じる事や趣味を把握し行って頂けるよう支援している。嗜好品については調査を行い把握し可能な限り提供できるように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	状況が許す限り（天候や体調等）散歩を毎日実施している。又、食材等も買出しにはご入居者様に同伴頂き外出機会を確保している。突発の外出には職員が付き添うようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	購入希望があった場合、個別対応にて買い物へ同伴している。又、その際一定の金額を渡し自由に買い物できるよう援助している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ電話の使用援助、便箋、封筒の提供を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾りつけ等はイベント時のみとし普段は落ち着いた家庭のような雰囲気を出すよう心がけている。又、掃除等の環境整備も常時行っている。トイレ等には見当識障害が顕著に出た場合や新規のご入居者様が慣れる間だけ目印を設置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	回想法室や玄関前、庭のベンチを活用している。席は混乱を招かぬよう食事時は固定しているがその他の時間はご入居者様同士がもめない限り自由としている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に新品を買うのではなく今まで使用していた家具等を持ち込んで頂ける様お願いしている。各居室には入居前に使用していた物の持ち込みがある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員見守りや一部介助を行う事で様々な作業を行って頂いている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

サン・フローラ上白根

作成日

平成29年11月8日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練時に参加頂ける近隣住民の人数が少ない	避難訓練時の近隣住民の参加人数を増やす	日頃からの交流範囲を広めるようにする	1年
2	1	理念の実践	各職員、理念の理解度ど深める事ができる	新入職員研修時の時間を増やす。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。